

大型木材小売店マルダイ（静岡県富士市、深沢裕一郎社長）のプレカット事業部はこのほど、構造設計の手法と基本的な考え方をまとめた「マルダイ構造設計基準」を作成。今月から運用すると発表した。原則として、木造軸組工法の物件はすべて同基準に従って設計を行う。間取りなど様々な条件により基準適用ができない物件については社内チェックの際に検討を行い、管理者の確認を得るとしている。

木造工法の「構造設計基準」

マルダイ今月から運用始める

今回まとめられた基準は、構造設計の品質向上を図り、顧客であるビルダーと最終消費者（施主）が安心してプレカット製品を利用できるように、同社が構造設計を行う際の基準を独自に定めたもの。

基準（マニュアル）は5部構成。基本事項としては木造軸組工法の概要や、鉛直荷重に考慮した構造設計、柱

の位置、梁のかけ方、水平構面の重要性などを解説。構造図については、構造ブロック区画や母屋・小屋・1、2階床など各伏図の作成手順を掲載している。

また、伏図作成のための基礎知識として仕口・継ぎ手や合板直張り方法などのルールを明確化し、木材の知識として製材品の種類や乾燥材、JAS、エンシニアードウッド、主要樹種の性質を解説。

このほか構造に関しては継ぎ手の位置、鉛直荷重の分散、通し柱及び梁の断面欠損などを配慮すべき事項として指摘している。